

神戸発 熊本地震

神戸で育ち、大学は建築を学ぶため、熊本市にある熊本工業大(現・崇城大)に進んだ。現在は兄とともに、神戸市北区で工務店を経営している。

4月下旬から1週間、会社スタッフを連れて熊本に入った。ボランティアの受け入れ態勢が整っておらず、被害に遭った熊本市内や菊陽町などを重点的に回った。倒壊家屋の応急措置をしたり、救援物資の仮置き場の小屋を建てたりした。

熊本城をはじめ、見知った街が傷ついた光景には心が痛んだ。ただ、誰もが私たちを温かく迎えてくれ、この街の人情深さにあらためて気づかされた。たった1週間で去ることは後ろめたいが、見たこと、感じたことを同業者や神戸の人たちに伝えていきたい。

家屋から出たがれきの撤去や修復など、職を生かして被災地でもっとできることはある。でも、復旧復興の仕事はまず地元の業者さんから。自分分は、何回も足を運んで立ち直っていく街と人を応援し続けたい。



あかい工房棟梁

赤井 敏貢さん

職生かし、応援し続ける

〓 三木市、43歳
(聞き手・井上 駿)
△神戸新聞提供・随時掲載▽